

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

| | | | | | |
|----------|---|------------------------------|---------|--------------------------|-----|
| 施策展開 | 3-(12)-ウ | 特産品開発やプロモーションなどマーケティング支援等の強化 | 施策 | ① 離島の特色を生かした特産品づくりと販路の拡大 | |
| | | | 施策の小項目名 | ○魅力ある特産品開発の促進 | |
| 主な取組 | 県産品のデザイン活用の促進 | | | 実施計画記載頁 | 336 |
| 対応する主な課題 | ②離島特産品の製造業者が市場ニーズを把握することは困難であり、また、小規模零細業者が多いことから、独自に製品開発、販路拡大等を展開することは、資金力、生産力、人材、ノウハウ等の面から極めて厳しい現状にある。 | | | | |

1 取組の概要(Plan)

| 取組内容 | | 年度別計画 | | | | |
|---|------------------------------|-------------------|-----|---------|---------|---------|
| | | H29 | H30 | R元(H31) | R2(H32) | R3(H33) |
| 県産品の製品開発等におけるデザイン活用を促進し、県産品の差別化、高付加価値化を目指し、県内デザイナーのデザイン力の向上と県内企業に対するデザイン活用の普及を図る。 | | 展示会・研修会の開催(1回) | | | | |
| 実施主体 | 県 | | | | | |
| 担当部課【連絡先】 | 商工労働部ものづくり振興課 【098-866-2337】 | | | | | |
| | | 企業等へのデザイン活用手法等の普及 | | | | |

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)

| 予算事業名 | ファッション・デザイン普及事業 | | | | | | R元(H31)年度 | | 平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画 |
|-------|-----------------|----------|----------|----------|----------|------------|-----------|------|--|
| 主な財源 | 実施方法 | H26年度決算額 | H27年度決算額 | H28年度決算額 | H29年度決算額 | H30年度決算見込額 | 当初予算額 | 主な財源 | ○H30年度: 離島地域において、デザインの活用を促進する。 ○R元(H31)年度: 工芸振興センターや工業技術センターにおいて、技術支援の一環として対応を継続していく。 |
| 県単等 | 委託 | 3,113 | 2,131 | 607 | 637 | 620 | 0 | 県単等 | |
| 予算事業名 | — | | | | | | R元(H31)年度 | | 平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画 |
| 主な財源 | 実施方法 | H26年度決算額 | H27年度決算額 | H28年度決算額 | H29年度決算額 | H30年度決算見込額 | 当初予算額 | 主な財源 | ○H30年度: — ○R元(H31)年度: — |
| | | — | — | — | — | — | — | | |

様式1(主な取組)

| 活動指標名 | 研修会及び技術講習会の開催 | | | | H30年度 | | | H30年度 決算見込 額合計 | 進捗状況 | 活動概要 |
|--|---------------|-------|-------|-------|--------|--|-------------|----------------------|------|--|
| 実績値 | H26年度 | H27年度 | H28年度 | H29年度 | 実績値(A) | 計画値(B) | 達成割合 A/B | | | |
| | 5 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 100.0% | 620 | 順調 | <p>宮古島市において、織物事業者を対象に、工芸布(宮古上布)を活用したバッグ等の縫製の前段階に必要なデザイン及びパターン設計から、ミシン縫いによる製作工程について、研修会(講義及び試作品制作)を開催した。</p> |
| 活動指標名 | — | | | | H30年度 | | | | | |
| 実績値 | — | — | — | — | — | — | | | | <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>宮古織物事業協同組合員を主とした7名の参加があり、バッグの製造過程(型紙の設計や素材の扱い)や、仕上げの上質感(高級感)を演出するためのデザインなどを理解することができた。</p> |
| 活動指標名 | — | | | | H30年度 | | | | | |
| 実績値 | — | — | — | — | — | | | | | |
| (2)これまでの改善案の反映状況 | | | | | | | | | | |
| 平成30年度 of 取組改善案 | | | | | | 反映状況 | | | | |
| <p>①デザインの啓発については、ものづくりの技術支援機関でもなる工芸振興センターや工業技術センターなど出先機関と連携して行う。</p> | | | | | | <p>①研修会開催にあたっては、特に運営面において工芸振興センターの協力を得ながら実施している。</p> | | | | |



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・離島地域においては、デザインに関する情報を得る機会が少なく、また商品とする際の二次加工業者の情報も乏しく、交流機会もほとんど無い。

○外部環境の変化

・ものづくりを行う企業等のデザインに対する意識が低く、企業の商品企画力の向上のため、デザイナーとの連携強化を推進していく必要がある。

・離島地域は小規模零細業者が多いことから、独自に製品開発、販路拡大等を展開することは、資金力、生産力、人材、ノウハウ等の面から極めて厳しい現状にある。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・実際にものづくりを行っている事業者との交流の機会を増やすことが必要。



4 取組の改善案(Action)

・当該事業は平成30年度で終了となるが、デザインの啓発については、引き続きものづくりの技術支援機関である工芸振興センターや工業技術センターなど出先機関と連携して行う。

(技術支援事業における講習会実施および技術相談対応など)

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

| | | | | | |
|----------|--|------------------------------|---------|--------------------------|-----|
| 施策展開 | 3-(12)-ウ | 特産品開発やプロモーションなどマーケティング支援等の強化 | 施策 | ① 離島の特色を生かした特産品づくりと販路の拡大 | |
| | | | 施策の小項目名 | ○魅力ある特産品開発の促進 | |
| 主な取組 | 原材料の安定確保 | | | 実施計画記載頁 | 337 |
| 対応する主な課題 | ③本県の離島工芸産業は、宮古上布や久米島紬など全国的にも評価の高い品目があるものの、地理的制約により、市場ニーズの変化への対応不足や人材の確保難等の課題があり、生産額は大きく減少している。 | | | | |

1 取組の概要(Plan)

| 取組内容 | | 年度別計画 | | | | |
|---|---------------|---|----------------|---------|---------|---------|
| | | H29 | H30 | R元(H31) | R2(H32) | R3(H33) |
| 染織工芸品に使用される原材料の供給体制を強化するために、供給事業者の育成・確保及び技術力向上により、良質な原材料の安定供給を図る。 | | | | | | |
| | | 安定確保に向けた関係機関や事業組合等とのネットワークの構築、原材料供給体制強化 | | | | |
| 実施主体 | 県 | | | | | |
| 担当部課【連絡先】 | 商工労働部ものづくり振興課 | | 【098-866-2337】 | | | |

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)

| 予算事業名 工芸品原材料確保事業 | | | | | | | R元(H31)年度 | | 平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画 |
|------------------|------|----------|----------|----------|----------|------------|-----------|------|--|
| 主な財源 | 実施方法 | H26年度決算額 | H27年度決算額 | H28年度決算額 | H29年度決算額 | H30年度決算見込額 | 当初予算額 | 主な財源 | |
| 県単等 | 委託 | 0 | 0 | 0 | 9,000 | 19,770 | 25,550 | 県単等 | ○H30年度: 本県工芸品の効率的な原材料供給体制を強化するために、原材料供給業者の確保・育成及び技術力向上を図る。 ○R元(H31)年度: 本県工芸品の効率的な原材料供給体制を強化するために、原材料供給業者の確保・育成及び技術力向上を図る。 |
| 予算事業名 — | | | | | | | R元(H31)年度 | | 平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画 |
| 主な財源 | 実施方法 | H26年度決算額 | H27年度決算額 | H28年度決算額 | H29年度決算額 | H30年度決算見込額 | 当初予算額 | 主な財源 | |
| | | — | — | — | — | — | — | | ○H30年度: — ○R元(H31)年度: — |

様式1(主な取組)

| 活動指標名 | 糸芭蕉の生産技術者養成 | | | | H30年度 | | | H30年度 決算見込 額合計 | 進捗状況 | 活動概要 |
|---|-------------------|-------|-------|-------|--------|---|-------------|----------------------|------|---|
| 実績値 | H26年度 | H27年度 | H28年度 | H29年度 | 実績値(A) | 計画値(B) | 達成割合 A/B | | | |
| | — | — | — | 3 | 2 | 2 | 100.0% | 19,770 | 順調 | <p>本県工芸品の原材料供給業者の確保・育成及び技術力向上を図るため、喜如嘉の芭蕉布に使用される芭蕉系の採織技術者の育成研修、糸芭蕉の栽培・管理技術などの試験研究を実施。また、琉球藍に関する試験研究、糸芭蕉及び琉球藍に関するヒアリング調査を実施した。</p> |
| 活動指標名 | 検討会(委員会)の開催 | | | | H30年度 | | | | | |
| 実績値 | H26年度 | H27年度 | H28年度 | H29年度 | 実績値(A) | 計画値(B) | 達成割合 A/B | | | |
| | — | — | — | 2 | 2 | 2 | 100.0% | | | <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>糸芭蕉の栽培技術者2名の実地研修、糸績みの技術者2名の技術研修を行った。それと平行して、糸芭蕉の特性から栽培技術の確立に向けた試験研究を実施した。</p> <p>琉球藍については、藍建てや染色に関する微生物の観点から、泥藍を精製する際の条件に関する研究を実施した。</p> <p>また、それぞれの原材料の実態に関するヒアリングの実施、琉球藍に関する情報交換会、各部会の実施と、事業を統括する委員会を各2回ずつ開催した。</p> |
| 活動指標名 | 情報交換会およびシンポジウムの開催 | | | | H30年度 | | | | | |
| 実績値 | H26年度 | H27年度 | H28年度 | H29年度 | 実績値(A) | 計画値(B) | 達成割合 A/B | | | |
| | — | — | — | — | 2 | 2 | 100.0% | | | |
| (2)これまでの改善案の反映状況 | | | | | | | | | | |
| 平成30年度 of 取組改善案 | | | | | | 反映状況 | | | | |
| <p>①原材料確保(H30年度は芭蕉糸と琉球藍)における安定供給ノウハウの確立を目指して、原材料植物の品種改良や肥培管理の検討を行い、栽培農家の確保に向けた人材育成を行う。</p> <p>②原材料の試験研究による品質の向上、採織技術者の育成確保に向けた各種セミナー・技術講習会などによる人材育成を行う。</p> <p>③事業実施内容の情報共有や、調査実施内容の報告を兼ねた情報交換会を開催する。</p> | | | | | | <p>①糸芭蕉の栽培や管理育成、刈り取りや採織に係る一連の作業を担う人材育成を実施。採織技術(糸績み)に関する技術研修を実施した。</p> <p>②糸芭蕉の栽培・管理・採織技術に関する試験研究のための圃場を整備し実験を開始。琉球藍については泥藍製造に関わるメカニズムの解明に向けた研究を進めており、今後の人材育成に活用するデータ及びノウハウの蓄積を進めている。</p> <p>③糸芭蕉および琉球藍に関するヒアリングを実施。琉球藍に関しては、情報交換会を2回開催した。</p> | | | | |



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

- ・人材育成については、自己判断で作業が行えるまでには継続した指導が必要である。
- ・植物の育成状況に関わる実証実験を含むため、成果を出すまでには期間を要する。
- ・原材料(琉球藍)生産者と利用者(染織産地組合)との交流促進が必要である。
- ・これまで曖昧だったそれぞれの原材料の生産技術について、メカニズムの解明が必要である。

○外部環境の変化

- ・苧麻糸の生産者不足も顕著であるため、その課題解決に向けた取組が求められている。
- ・琉球藍葉の育成方法や泥藍の精製技法の普及に加え、泥藍を染め液として調整する技術についても、研究を進め使用者に結果を還元していくことが求められている。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・人材育成については、実施内容をステップアップしつつ継続した指導を実施する必要がある。
- ・糸芭蕉や琉球藍の生育メカニズムの解明と、生産性向上および品質改善・安定化に向けた試験研究を継続する必要がある。
- ・糸芭蕉や琉球藍に加えて、八重山上布や宮古上布に使用される苧麻糸に関する実態把握も必要である。
- ・それぞれの原材料に関する情報共有や、技術の普及に向けた取組を実施する必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・芭蕉糸の生産技術者の育成と、糸芭蕉の栽培・管理・採織技術の試験研究を継続して実施する。
- ・泥藍製造工程の改善に向けた試験研究を推進し、染織のための藍建ての技術や染色性に関する試験も実施する。
- ・八重山上布や宮古上布に使用される苧麻の実態把握のためのヒアリングを実施する。
- ・各原材料に関する情報共有のための部会・委員会・シンポジウムの開催、技術の普及に向けたセミナーや講習会を実施する。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

| | | | | | |
|----------|--|------------------------------|---------|--------------------------|-----|
| 施策展開 | 3-(12)-ウ | 特産品開発やプロモーションなどマーケティング支援等の強化 | 施策 | ① 離島の特色を生かした特産品づくりと販路の拡大 | |
| | | | 施策の小項目名 | ○魅力ある特産品開発の促進 | |
| 主な取組 | 工芸製品新ニーズモデル創出事業 | | | 実施計画記載頁 | 337 |
| 対応する主な課題 | ③本県の離島工芸産業は、宮古上布や久米島紬など全国的にも評価の高い品目があるものの、地理的制約により、市場ニーズの変化への対応不足や人材の確保難等の課題があり、生産額は大きく減少している。 | | | | |

1 取組の概要(Plan)

| 取組内容 | | 年度別計画 | | | | |
|---|------------------------------|---------------|-----|---------|---------|---------|
| | | H29 | H30 | R元(H31) | R2(H32) | R3(H33) |
| 生産額等の減少が続く本県工芸産業を振興するため、新たな製品づくりを目指す工芸事業者を公募・採択し、流通やマーケティング、試作品開発、販路開拓等の支援を通して、工芸分野における現代の消費者ニーズに対応した新たな製品モデルの創出に繋げる。 | | 30製品 製品開発数 | | | | → |
| 実施主体 | 県 | | | | | |
| 担当部課【連絡先】 | 商工労働部ものづくり振興課 【098-866-2337】 | | | | | |
| | | 新ニーズに対応した製品開発 | | | | |

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)

| 予算事業名 工芸製品新ニーズモデル創出事業 | | | | | | | R元(H31)年度 | | 平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画 |
|-----------------------|------|--------------|--------------|--------------|--------------|----------------|-----------|------|---|
| 主な財源 | 実施方法 | H26年度 決算額 | H27年度 決算額 | H28年度 決算額 | H29年度 決算額 | H30年度 決算見込額 | 当初予算額 | 主な財源 | |
| 県単等 | 委託 | 6,701 | 7,778 | 8,271 | 8,372 | 8,622 | 9,819 | 県単等 | ○H30年度: 工芸産業の振興を図るため、新たなニーズに対応した製品開発を6件を実施するとともに、工房運営セミナーを開催した ○R元(H31)年度: 工芸産業の振興を図るため引き続き、新たなニーズに対応した製品開発を6件を実施するとともに、工房運営セミナーを開催する。 |
| 予算事業名 — | | | | | | | R元(H31)年度 | | 平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画 |
| 主な財源 | 実施方法 | H26年度 決算額 | H27年度 決算額 | H28年度 決算額 | H29年度 決算額 | H30年度 決算見込額 | 当初予算額 | 主な財源 | |
| | | — | — | — | — | — | — | | ○H30年度: — ○R元(H31)年度: — |

様式1(主な取組)

| 活動指標名 | 製品開発数 | | | | H30年度 | | | H30年度 決算見込 額合計 | 進捗状況 | 活動概要 |
|---|-------|-------|-------|-------|--------|---|-------------|----------------------|------|--|
| 実績値 | H26年度 | H27年度 | H28年度 | H29年度 | 実績値(A) | 計画値(B) | 達成割合 A/B | | | |
| | 44 | 30 | 48 | 48 | 32 | 30 | 100.0% | 8,622 | 順調 | <p>離島の1事業者を含む6事業者を採択し、流通やマーケティング、試作品開発、販路開拓等の支援を行った。支援対象の工芸事業者により現代の消費者ニーズに対応した完成度の高い商品が32アイテム開発された。また、本島北部、南部、石垣の3地域で工房運営セミナーを開催した。</p> |
| 活動指標名 | — | | | | H30年度 | | | | | |
| 実績値 | H26年度 | H27年度 | H28年度 | H29年度 | 実績値(A) | 計画値(B) | 達成割合 A/B | | | |
| | — | — | — | — | — | — | | | | |
| 活動指標名 | — | | | | H30年度 | | | | | |
| 実績値 | H26年度 | H27年度 | H28年度 | H29年度 | 実績値(A) | 計画値(B) | 達成割合 A/B | | | |
| | — | — | — | — | — | — | | | | |
| (2)これまでの改善案の反映状況 | | | | | | | | | | |
| 平成30年度 of 取組改善案 | | | | | | 反映状況 | | | | |
| ①県内工芸事業者を対象として、工房を運営する上で必要な考え方等に関するセミナー開催を検討する。 | | | | | | ①工房運営セミナーを、北部、南部、石垣の3会場で開催し、延べ47名の参加があった。 | | | | |



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・情報入手機会の不足など、商品開発における離島地域特有の不利な環境がある。

○外部環境の変化

・本事業の支援を受けて工房経営の改善や取引先が増加した事業者が出て来ており、成果が現れてきている。

・工房運営セミナーの開催や、事業者募集の説明会や成果報告会で支援を受けた事業者を招き体験談を紹介する機会を設けたことで、工芸事業者に工房運営に対する関心が広がり始めている。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・離島事業者の市場ニーズに合った製品開発力を向上させるため、離島事業者への支援を継続して行う必要がある。



4 取組の改善案(Action)

・、補助事業者選定に引き続き離島枠を設定して離島事業者の参加を促し、市場ニーズに対応した製品開発及び工房運営に対する関心や意識の向上を図る。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

| | | | | | |
|----------|---|------------------------------|---------|--------------------------|-----|
| 施策展開 | 3-(12)-ウ | 特産品開発やプロモーションなどマーケティング支援等の強化 | 施策 | ① 離島の特色を生かした特産品づくりと販路の拡大 | |
| | | | 施策の小項目名 | ○販路拡大・プロモーション活動の支援 | |
| 主な取組 | 県産品拡大展開総合支援事業 | | | 実施計画記載頁 | 337 |
| 対応する主な課題 | ①離島地域は、主要市場から遠く離れているため、原材料の仕入れ、出荷に係る物流コストが割高にならざるを得ず、市場競争力を低下させる要因となっている。 | | | | |

1 取組の概要(Plan)

| 取組内容 | | 年度別計画 | | | | |
|---|------------------------------|-------------------|-----|---------|---------|---------|
| | | H29 | H30 | R元(H31) | R2(H32) | R3(H33) |
| 県外における沖縄フェア等のプロモーション、県内企業に対する見本市・商談会出展支援を行うことにより、県産品の認知度向上、需要の創出をはじめ、販路拡大を図る。 | | 沖縄フェア16回 | | | | |
| | | 見本市・商談会90回 | | | | |
| 実施主体 | 県、支援機関、企業等 | | | | | |
| 担当部課【連絡先】 | 商工労働部アジア経済戦略課 【098-866-2340】 | | | | | |
| | | 沖縄フェア、商談会等による販路拡大 | | | | |

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)

| 予算事業名 | | | | | | | R元(H31)年度 | | 平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画 |
|---------------|------|----------|----------|----------|----------|------------|-----------|------------|---|
| 主な財源 | 実施方法 | H26年度決算額 | H27年度決算額 | H28年度決算額 | H29年度決算額 | H30年度決算見込額 | 当初予算額 | 主な財源 | |
| 県産品拡大展開総合支援事業 | | | | | | | | | ○H30年度: 沖縄フェア開催32回、見本市・商談会出展支援111件を実施した。 ○R元(H31)年度: 沖縄フェア開催16回、見本市・商談会出展支援90件を実施する。 |
| 一括交付金(ソフト) | 委託 | 121,537 | 136,527 | 236,017 | 183,239 | 127,643 | 132,848 | 一括交付金(ソフト) | |
| 予算事業名 | | | | | | | | | 平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画 |
| 主な財源 | 実施方法 | H26年度決算額 | H27年度決算額 | H28年度決算額 | H29年度決算額 | H30年度決算見込額 | 当初予算額 | 主な財源 | |
| | | — | — | — | — | — | — | | ○H30年度: — ○R元(H31)年度: — |

様式1(主な取組)

| 活動指標名 | 沖縄フェアの開催 | | | | H30年度 | | | H30年度 決算見込 額合計 | 進捗状況 | 活動概要 |
|---|-------------|-------|-------|-------|--------|--|-------------|----------------------|------|--|
| 実績値 | H26年度 | H27年度 | H28年度 | H29年度 | 実績値(A) | 計画値(B) | 達成割合 A/B | | | |
| | 9 | 16 | 20 | 32 | 32 | 16 | 100.0% | 127,643 | 順調 | 県外における沖縄フェアを32回開催し、県産品のPR及び販路拡大に繋がった。 また、見本市・商談会出展補助を111件実施し、県内企業の商談・マッチングの機会を創出した。 |
| 活動指標名 | 見本市・商談会出展支援 | | | | H30年度 | | | | | |
| 実績値 | H26年度 | H27年度 | H28年度 | H29年度 | 実績値(A) | 計画値(B) | 達成割合 A/B | | | 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 沖縄フェア開催、見本市・商談会出展支援とも、計画値を上回り、順調である。 |
| | 実施なし | 74 | 95 | 98 | 111 | 90 | 100.0% | | | |
| 活動指標名 | — | | | | H30年度 | | | | | |
| 実績値 | H26年度 | H27年度 | H28年度 | H29年度 | 実績値(A) | 計画値(B) | 達成割合 A/B | | | |
| | — | — | — | — | — | — | | | | |
| (2)これまでの改善案の反映状況 | | | | | | | | | | |
| 平成30年度の取組改善案 | | | | | | 反映状況 | | | | |
| ①沖縄フェアにおいては、県外消費者向けのメニュー提案、商品説明員の配置、商品特性を説明するPOPなど、県産品のお試し購入につながる取組を行う。 | | | | | | ①県外量販店で実施した沖縄フェアにおいて、レシピの配布、商品説明のPOPを設置、商品説明員による試飲・試食を実施し、県産品の認知度向上を図り購入に繋がった。 | | | | |



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・県外への販路拡大を推進するためには、生産側の視点だけではなく、県外市場(消費者、卸売業者、小売店等)のニーズを把握し、ニーズに合った商品開発が求められるが、マーケティング力が脆弱な零細企業が多い。

○外部環境の変化

・近年の好調な入域観光客数の増加や、これまでの観光プロモーションと連携した沖縄フェア、物産展等の開催実績を踏まえると、県外の消費者、バイヤー等が県産品に接する機会は着実に増えていることから、県産品の認知度は向上しているものと推察される。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・県産品の県外での販路拡大を図るためには、県外量販店での定番化を促進する必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・沖縄フェア終了後、量販店に対して定番化に向けた商談や提案を実施する。
- ・県内メーカーの商品開発力や営業力等の強化を図るとともに、商談支援を実施し、定番化の促進に取り組む。

様式1(主な取組)

| 活動指標名 | 海外小売店での沖縄フェア(食品分野) | | | | H30年度 | | | H30年度 決算見込 額合計 | 進捗状況 | 活動概要 | | | |
|--|--------------------|-------|-------|-------|--------|---|-------------|----------------------|--------|---|--|-------------|---------------------|
| 実績値 | H26年度 | H27年度 | H28年度 | H29年度 | 実績値(A) | 計画値(B) | 達成割合 A/B | | | | | | |
| | 3 | 6 | 13 | 25 | 22 | 19 | 100.0% | 297,574 | 順調 | 県産品の海外販路の拡大を推進するため、海外での沖縄フェアを22回、商談会を9回、見本市への出展を1回実施した。 | | | |
| 活動指標名 | 海外における商談会(食品分野) | | | | H30年度 | | | | | 実績値(A) | 計画値(B) | 達成割合 A/B | 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 |
| 実績値 | H26年度 | H27年度 | H28年度 | H29年度 | 9 | 3 | 100.0% | | | | | | |
| 活動指標名 | 海外見本市への出展(食品分野) | | | | H30年度 | | | 実績値(A) | 計画値(B) | 達成割合 A/B | 具体例として、シンガポールとタイの飲食店にて黒糖を使用した「OKINAWAラテ」の販売や、中国の飲食店では「沖縄塩ソフトクリーム」が販売されるなど、県産食材の認知度が向上している。 | | |
| 実績値 | H26年度 | H27年度 | H28年度 | H29年度 | 1 | 1 | 100.0% | | | | | | |
| (2)これまでの改善案の反映状況 | | | | | | | | | | | | | |
| 平成30年度の取組改善案 | | | | | | 反映状況 | | | | | | | |
| <p>①県産品の認知度向上や商品の定番化を図るため、継続的にフェアや商談会を実施するとともに、昨年度作成した県産品の機能性を紹介する動画等を活用し、売場における商品PRを行う。</p> <p>②好調な観光と連携し、県産品の認知度向上を図る。</p> | | | | | | <p>①県産品の認知度向上や商品の定番化を図るため、沖縄フェアや商談会を実施するとともに、県産品の機能性を紹介する動画等を活用し、県産品のブランドイメージである「長寿の島沖縄」の情報発信や商品PRを行った。</p> <p>②外国人観光客が290万人(平成30年暦年)を超えるなど観光が好調であり、に外国人観光客に県産品の認知度を向上させるため、観光部局との連携を行った。</p> | | | | | | | |



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・平成21年度から、コンテナスペース確保事業を開始したことにより、貨物の集約が図られるとともに、輸出量とコンテナ利用台数が増加している。

○外部環境の変化

・沖縄への海外観光客数は約290.4万人(平成30年暦年)と過去最高を更新した。香港-下地島や、香港-石垣島、台北-石垣島といった、海外から離島への直行便が就航し、多くの外国人観光客が離島を訪れる機会も増えたことにより、沖縄の離島への認知度が向上している。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・アジア地域に安定的に輸出を行うためには、フェアや商談会の実施による認知度向上や、小売店舗等に商品の定番化を図る必要がある。
- ・アジア地域における、離島特産品の認知度向上と、商流構築を図る必要がある。
- ・那覇空港に就航している旅客便を活用し貨物を増加させ、沖縄国際ハブ機能の強化を図る必要がある。



4 取組の改善案(Action)

- ・県産品の認知度向上や商品の定番化を図るため、継続的にフェアや商談会を実施するとともに、県産品の機能性を紹介する動画等を活用し、売場における商品PRを継続して行う。
- ・各取組の際には、海外展開に意欲的な離島企業との連携を図る。
- ・現在のコンテナスペース確保事業の貨物就航地域以外への輸出促進を図るため、旅客便を活用した貨物輸送への補助金「輸出促進支援」の活用を促進する。

様式1(主な取組)

| 活動指標名 | 催事開催回数 | | | | H30年度 | | | H30年度 決算見込 額合計 | 進捗状況 | 活動概要 |
|--|--------|-------|-------|-------|--------|---|-------------|----------------------|------|---|
| 実績値 | H26年度 | H27年度 | H28年度 | H29年度 | 実績値(A) | 計画値(B) | 達成割合 A/B | | | |
| | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 100.0% | 3,000 | 順調 | 東京銀座にて沖縄の工芸品を一堂に集めた展示会を開催し、離島5産地組合(久米島、宮古、石垣、与那国、竹富町)が参加した。平成30年度の催事3日間全体の来場者数は1,787人となった。 |
| 活動指標名 | — | | | | H30年度 | | | | | |
| 実績値 | H26年度 | H27年度 | H28年度 | H29年度 | 実績値(A) | 計画値(B) | 達成割合 A/B | | | |
| | | | | | | | | | | 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 |
| | | | | | | | | | | 東京開催が8回目となり、定期的なイベントとして定着しつつあり、沖縄県の工芸品の普及並びに販売促進につながっている。離島5産地組合も催事に参加し、首都圏における離島工芸品の宣伝普及に繋がった。 催事の売上についても、東京開催以降、徐々に伸びており、H28年に全体で約3600万円、離島産地のみではH27年の1350万円をピークに、昨年度(H30)も離島地域だけで1250万円超と好調を維持している。 |
| 活動指標名 | — | | | | H30年度 | | | | | |
| 実績値 | H26年度 | H27年度 | H28年度 | H29年度 | 実績値(A) | 計画値(B) | 達成割合 A/B | | | |
| | | | | | | | | | | |
| (2)これまでの改善案の反映状況 | | | | | | | | | | |
| 平成30年度 of 取組改善案 | | | | | | 反映状況 | | | | |
| <p>①平成31年度以降の開催時期・場所(東京・関西・沖縄等)については、平成30年度ふれあい広場の状況も踏まえながら、平成30年10月頃に産地調整会議を開催し検討する。</p> <p>②一般来場者の誘客を強化するため、集客効果が見込める会場内での様々なイベントプログラムを組み込むなど、来場者誘客に向けてのアプローチを検討する。</p> <p>③催事対応等が困難を躊躇している離島産地があれば、催事手続きや事前準備等について、市町村へ協力を依頼する。</p> | | | | | | <p>①10月に産地調整会議(報告会)を開催し、次年度の検討を行った結果、平成31年9月に東京銀座で開催することになった。</p> <p>②会場(銀座)周辺住宅や銀座わしたショップ前、染織問屋・小売、三線・陶器の顧客など31,500枚のチラシを配布した。特に三線教室など三線愛好家への呼びかけや、銀座わしたショップfuzoとの連携が誘客効果が高かった。</p> <p>③竹富町については、産地から1人での参加となることから、町役場の職員に設営撤去等の協力を依頼した。また、久米島、石垣からも催事サポートのため担当職員の派遣を依頼した。</p> | | | | |



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・ふれあい広場の催事内容等については、工芸産地事業協同組合で構成される産地調整会議において決めることになるが、開催場所等の選定にあたっては多くの産地の意見が集約できるよう留意する。

○外部環境の変化

・一部の離島産地組合については、組織力が脆弱で県外等のイベントに対応できない場合がある。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・ふれあい広場の開催については、沖縄工芸品の更なる認知度向上や販路開拓の為に、好評である現状の開催地(東京)を継続させつつ、新たな可能性(開催会場や費用等)についても検討を重ねる。

・新規の来場者、コアな沖縄工芸ファンを誘客するためのアプローチを検討する。

・産地組合において、人員や商品不足により県外催事の対応が困難であったとしても、首都圏の多くの客にPRすることの出来る絶好の機会なので、催事に参加するよう呼びかける。

4 取組の改善案(Action)

・平成32年度以降の開催時期・場所(東京・関西・沖縄等)については、平成31年度ふれあい広場の状況も踏まえながら、平成31年10月頃に産地調整会議を開催し検討する。

・一般来場者の誘客を強化するため、集客効果が見込める会場内での様々なイベントプログラムを組み込むなど、引き続き来場者誘客に向けてのアプローチを検討する。

・催事対応等が困難で躊躇している離島産地があれば、市町村へ協力を依頼する。